



少年矯正施設で日本初の大規模防災訓練実施

《茨城農芸学院防災訓練》

—災害時を想定した地域貢献のカタチ—

令和2年2月25日（火），茨城農芸学院において，少年矯正施設では日本初となる住民参加型・行政機関連携の防災訓練が行われました。同訓練は，5部で構成されており，第1部は避難所開設訓練，第2部は地域被災住民受入れ訓練，第3部は給水・炊き出し・簡易トイレ設置訓練，第4部は避難所運営訓練，第5部は検討・討議会という内容で，午後1時30分から約3時間に渡る訓練となりました。



訓練前の事前説明風景



訓練開始！避難所開設へ



避難者の受入状況



非常食の配給訓練



牛久市役所による給水支援訓練

想定は、大規模地震によって牛久市内全域が停電し、警戒レベル4「避難勧告」が発令されたというもので、避難所開設の初動から、被災者の受入れ、避難所運営に至るまで、一連の流れが分かりよいものでした。

その中で、同学院の職員らは、総務班、名簿班、広報班、食料班、物資班、救護班、衛生班を編成し、各班相互の連携・協働をしっかりと意識しながらそれぞれ

の役割を果たしており、きめの細かさ柔軟さを併せ持った避難者支援を展開しました。

また、牛久市交通防災課による段ボールベッド作成要領のレクチャーと給水訓練や水戸刑務所から派遣された管区機動警備隊員による炊き出し訓練なども行われ、同農芸学院との連携強化を高める機会となりました。



避難所運営訓練

全ての訓練終了後に行われた検討・討議会では、訓練に参加していた4つの行政区の区長らから、「今回の訓練を通じて、災害時には、安心して茨城農芸学院に身を預けられると実感しました。そして、職員の皆様の熱意とやる気が伝わってくる、本当にありがたい訓練でした。感謝します。」という声上がり、さらに、牛久市交通防災課からは、「今後、より一層この種の訓練を重ね、茨城農芸学院や牛久警察署、牛久消防署とも連携しながら一体となり、地域の防災対策を考えて行きたい。」との意見が寄せられ、牛久消防署からも、「今回の訓練は、少年矯正施設と地域社会が連携して行う防災訓練のベースになるのではないのでしょうか。それだけ充実した素晴らしい内容だったと思います。」という講評があり、まさに同学院の防災訓練は、少年矯正施設における新たな地域貢献のカタチを示すものとなりました。

